

区民と練馬区基本構想審議会との意見交換会
概要（確定版）

日時：平成20年12月18日（木）午後6時30分～8時20分

会場：光が丘区民ホール

出席委員（五十音順）

大屋幸恵、高橋徳行、沼田美穂、三澤ちづ子、村松昭、本山裕一、若井治子

参加者 30名

1. 開会

－副会長のあいさつ

2. 審議会委員紹介

－事務局から出席委員を紹介

3. 新基本構想の検討経過

－事務局から新基本構想の策定、審議会の位置づけ等について説明

4. 「中間のまとめ」の概要説明

－委員から説明

5. 「中間のまとめ」について寄せられた意見の紹介

－事務局から、12月17日までに13名の方から、11月29日の区政モニター懇談会にて20名の方から「中間のまとめ」に対するご意見をいただいたことを報告した。

6. 質疑応答（※参加者の発言は、区の責任で要旨をまとめたものです）

○参加者

- ・練馬は、経済的にも落ち込んでおり問題である。
- ・今回、意見交換会は4回目であるが、前回の関町での意見交換会では、区民のことを考えているのであればどうして昼間の時間帯で開催したのかと意見したところである。また、議会中であるという理由で企画部長も企画課長も出席していなかった。
- ・基本構想が実現するためには議会での議決が必要である。委員の皆さんには、議会の状況をご存知であるかお尋ねしたい。絵に描いた餅にしないためにも、議会を傍聴していただき、議会の状況を知っていただきたい。
- ・また、実現に向けて、行政としても責任をもって取り組んでいただきたい。
- ・本日これだけの人が集まったのはすばらしいことである。この状況を委員の方にも真剣に考えていただきたい。
- ・とにかく、絵に描いた餅になってしまわないようにということを、強く主張したい。

○企画部長

- ・今回の意見交換会は、区長が諮問した基本構想審議会の委員と区民との直接のやりとりを主眼に置いている。来年の3月に答申をいただき、区としての素案を作成した段階で説明会を開催する際には、企画課長も出席し、区の立場として内容をご説明させていただく。
- ・議会の状況を良く把握すべきとのご指摘もあったが、区長が議会に諮る案を作成するための骨格について、審議会でご検討いただいている段階である。答申をいただいた段階で議会との意思疎通を図っていくこととなる点をご理解いただきたい。

○参加者

- ・たとえば将来練馬区が大災害に見舞われたり、練馬区の施設や設備が劣化して改修が必要となったりするなど、緊急対応が必要となる場合もあると思う。今回の基本構想の考え方は非常に立派であるが、財源面での運営方針がどうなっているのか知りたい。
- ・練馬区の将来を考えて、練馬区の子どもたちに区の財産を残すことを考えれば、こうした緊急対応が必要な場合に備え得るよう少しでも貯金しておくという考え方も重要であり、そうした観点から歳入と歳出のバランスを確保するという考え方も必要ではないかと感じた。
- ・区の基本方針と言うことであるので、区としては、借金は作らないとか、緊急時に備えるとか、将来に備えて財政についてどういうスタンスでいるのかということを確認にして、議論すべきではないかという趣旨である。

○参加者

- ・練馬区に68年間居住しており、子どもの頃から、練馬がどういう状況だったかをよく知っていると思っている。今回の内容は非常にすばらしく、区が丁寧に取り上げて実現していけば、より良い区になると思う。
- ・「みどりを大事にする」ということは、まだ、農地をはじめとした空間があるということであろう。農地の私有財産と公有財産とのバランスは重要であるが、いずれにしても、農地は住宅地になる可能性が高いということを踏まえる必要がある。
- ・ある特別養護老人ホームで放課後の子どもたちの支援を行うという取り組みを行おうとしたが、区から目的外利用であるため利用できないと言われた。こうした例からも分かるように、区は横断的な連携が取れないことは事実である。
- ・今回の内容を拝見すると、練馬区の夢が弱いように思う。分野別の施策の中では練馬区での高齢化率を低くするとか、若い世帯が住んで楽しくなるといった内容が含まれていると思うのだが、こういったことをもう少し前面に出してはどうか。
- ・先ほどの特別養護老人ホームに子どもたちの支援拠点を作ろうとしたのは、練馬区は他区よりも高齢化率を低くする、子育てをしやすいまちにしていくことが重要であるという考えに基づいたものであるが、そうした観点から既存の施設の有効活用なども考えてほしい。

○事務局

- ・お二人の方から、財政基盤の確立についてのご指摘と、区では横断的な取り組みをしていくべき、練馬区の夢について具体的な提言があった方がよいというご指摘であった。

○企画部長

- ・財政運営をどう進めるかという基本スタンスについてであるので、行政からお答えさせていただきたい。
- ・毎年いただいている税金をベースに行政運営を進めているが、税金を含めた1年の歳入額に合わせた歳出にするということが基本であると考えている。
- ・しかし、人口が急増したときに設置した学校の改修・改築など、今後大きな支出が想定される場合もある。こうした場合は、それに向けて貯金をしておくことになる。
- ・貯金ばかりするのでもなく、使い続けるのでもなく、世代負担を考えながら、有効な財政支出を考えていかざるを得ないと考えている。
- ・これは、家庭の家計運営と同様であると思う。住民のための行政ということを考えれば、貯めすぎるというのではなく、必要なサービスを提供していくことが必要であると考えている。

○委員

- ・「夢が弱い」という指摘であるが、会場を見渡すと30代の方が非常に少ない。その方達がこの会場に来ないことが、まさに夢がないことなのかと思う。日々の生活に追われてしまっているのだと思う。
- ・私自身には、夢はある。個人の夢としては、加入するメリットを感じることができない町会を取り払う一方で、地域とのつながりが生まれる社会を築き、それによって心が豊かな人間が多くなる社会にしたいと思っている。
- ・物質的には十分に満たされた今、10年後は、心が豊かな練馬区をつくっていききたい。しかし、その思いが、中間のまとめに入っていないのは事実であると思う。今後検討していききたいと思う。
- ・もう一つ、高齢化率を低くするという話であるが、若い人の流入を促すためには農地を開発することが必要である。しかし、これに関しては行政側で関与することも難しいかと考えている。
- ・この区に住むとメリットがあるということが最も重要だと思う。

○参加者

- ・委員の皆さんに地域コミュニティとは何かということをお尋ねしたい。
- ・既存の地域コミュニティをいかに発展させ、行政と活力ある関係を構築することが、まさに協働ということではないのか。現在町会の加入率は約43%であるが、町会に代わる新しいコミュニティを作るとしたときに、いったい何年でこの43%という数字に到達することができるかとお考えだろうか。大きな誤解があるのではないか。
- ・同じ方向を向いていても、違う結果を生み出すことは多いが、行政は特にその傾向が強い。子どもや大人は同じように幸せを求めるが、その二つの幸せを一緒にすることがで

きない。先ほどの特別養護老人ホームの話もそうである。

- ・例えば消防団員を募集するといっても既存の組織からお手伝いしていただくことが多いなど、既存のさまざまな組織をいかにうまく活用しながら、新しい考えの人を巻き込んでいくかが重要である。
- ・練馬区のさまざまな資料を読んでも、いずれも今の状況をうまく捉えており、行政としても努力しているのだということが分かる。委員の皆さんも答申に向けて、地域の中の既存の資源を有効に活用し、発展させるということを考え、基本構想を夢のある形にしていきたいと思う。

○委員

- ・地域コミュニティについては、審議会の中でも議論している。私は光が丘に住んでおり、自治会も出来ない状況があることも知っている。幸いにして私が入っている自治会では70～80%の加入率があり、老人会も60歳以下の方を取り込んでサークル活動を活発に展開しているといった状況にあり、こういう取り組みを広げていくことが重要であると思っている。
- ・また、若い人たちがなかなか町会に加入しないという点についても、地域の安全の面から考えて、地域コミュニティが必要であるという観点から、今後改善していくことが重要であると考えている。
- ・地域コミュニティが必要であると感じているからこそ、「中間のまとめ」でも地域コミュニティを育むということを中心に打ち出している。
- ・「夢」を十分に表現できていないのは、ご指摘の通り、検討の必要があると思うが、子ども議会の資料などをいただき、勉強しながら、話し合いを進めているところである。

○副会長

- ・地域コミュニティという考え方について、昭和52年に策定された現在の基本構想だと、近隣住区・住区・地区・全区といった居住地をベースにした考え方で地域を捉えていた。
- ・今回は、町会というものを超えたコミュニティについても考えていきたいと思っている。例えば、ある特定のテーマについてのつながりをもとに、春日町に住んでいる人が関町まで支援に行くような仕組みも考えている。テーマ型のネットワークといっているが、こういうことを含めた地域コミュニティである点で、今までの基本構想とは異なる地域のとらえ方をしている。

○参加者

- ・広範囲の地域コミュニティとして具体的にどのような活動内容を想定しているか。

○副会長

- ・子育て支援団体や、NPOなどの市民活動などが該当する。今でもある活動であるが、こういった地域活動が、自分の住んでいるところだけではなく、力を貸してほしい地域でも活動できるような機動力のある区を目指すという観点から、地域コミュニティをとらえている。

- ・私は専門が社会学であるので、こうした考え方をしているが、委員によりさまざまな考えはあると思う。

○委員

- ・反論をしたいということではなく、建設的なご意見が出たことを非常にうれしいと思っている。
- ・行政に対する要望だけではなく、今のような建設的な意見をどんどん言っていただきたい。私がネガティブな意見をいっても、そうではないというご意見をどんどん出してほしい。

○委員

- ・地域コミュニティに関する内容であるが、阪神・淡路大震災の後の復興まちづくりを見ている中で、ものづくりだけでは復興もまちづくりも出来ないことがはっきりした。
- ・ライフラインが整ってもまちは復興せず、地域の人と人とのつながりがしっかりすることが最も重要である。いろんなリスクが今後発生する可能性があるが、こうした人と人とのつながりがなければ区が崩壊するのではないかと考えている。
- ・こうしたことを考えると、地域コミュニティの必要性ということは素直に理解できた。
- ・その上で、現在の資源を活かしながら、重要なところは区に引っ張ってもらえると効果的であるとも考えている。数年前まで学校に勤務していたが、阪神・淡路大震災の直後に、避難拠点運営連絡会を作ってくれるように区から言われた。そこに地域の方が何人か入って、運営の具体的な内容を検討するということがあったが、第1回の会合に、町会とPTAの役員、学校の教員、学校開放運営委員会の委員などが参加したが、皆がとまどっている中、区の職員が非常に熱心に支援してくれた。その結果、日曜日等に学校行事として炊き出しの訓練を行ったり、学校の避難訓練の際に地域の消防団の団長に講話をいただくなどの取り組みにつながり、地域の子どもが地域のために働いている人の顔を覚えてあいさつすることや、学校を卒業した子どもの親がその後町会で活躍するといった効果を生み出した。
- ・それまでは、若い世代とのつながりは希薄であったが、次第につながりが生まれてくることで、コミュニティを形成していけると感じた。
- ・具体的にうまくいったという例はたくさんあると思うので、そういった例を参考にしながら取り組みを進めていきたい。

○参加者

- ・今の委員の話はもったもであると思う。
- ・人と人とのつながりが地域コミュニティの形成上重要であると思う。しかし、人と人とのつながりは、その人の気持ちによってつながっていくものであり、具体的にどのようにつながっていくかが問題となる。
- ・「基本構想を実現するために」の「(3)基本構想を実現するための実施体制の整備」において「地域コミュニティの調整役となる人材を育成するなど」との記載がある。今回の基本構想では、「いきいき暮らせる地域コミュニティを育む」ことが大前提とある

が、そのための調整役の人材育成や地域コミュニティを育むための支援を行うという点について具体的に想定している内容があれば教えていただきたい。

○委員

- ・地域コミュニティの調整役と人材の育成とあるが、具体的な内容は今後検討していくことになる。ここでは関連する個人的な経験をご紹介します。
- ・練馬区に移り住んで、環境に関する活動を始めたいと思っていただけるところ、練馬区で、ねりまエコ・アドバイザー制度というものがあることを知った。この制度は、環境に関心のある区民を集めて、講座を開催し、講座を修了した人をねりまエコ・アドバイザーとして認定するものである。この制度を活用して、私は現在、ねりまエコ・アドバイザーとして活動している。
- ・環境問題については多くの方が問題意識を持ち活動意欲を持っている。しかし、勉強したり仲間を捜したりしないと活動が進んでいかない。そのため、区民のリーダー組織を作って取り組んで行くことが非常に重要であると思う。
- ・ねりまエコ・アドバイザーになることで、区が開催する環境イベントや講座などに参加し、市民に対する意識啓発活動を行うなど、行政と問題意識を共有化して活動を行うことが出来るようになった。このように、活動したい区民のニーズを吸い上げて、活動できるような環境を整備していくことで、活動する区民のコミュニティが形成されるのではないかと。

○委員

- ・練馬区内の大学に勤めているが、学生には、練馬区のことを考えることを通して、さまざまなことを学んでほしいと思っている。そのため、たとえば練馬区のごみをどうやったら減らすことができるのかといったテーマで取り組みをさせている。その際には、練馬区の職員の方にもお世話になったし、最終成果の発表の際にも職員の方に足を運んでいただいた。
- ・学生は全員が練馬区に住んでいるわけではないが、通っている地域を通していろんなことを学ぶことができる。間に行政が入ることで、地域の商店街やさまざまな団体と学生との間に出会いの場が生まれ、地域活性化に関する活動にもつながっている。
- ・こうした取り組みが広がるためには、職員一人ひとりがこうした取り組みの意義を理解するだけでなく、区という組織がバックアップすることも重要である。制度や仕組みとして構築する余地は非常に多いのではないかと。

○委員

- ・審議会では、実際に誰が区民と協働するかを考えると、職員のことを考えないで、区民との協働の枠組みを検討するのは不十分ではないかという議論があった。
- ・職員が基本構想の理念を受けて主体的に考えて、今後策定する計画の中に具体的に落とし込めなければ、基本構想が絵に描いた餅になるという議論の中で、職員の育成という表現を盛り込んだ。

○参加者

- ・人材育成に関して、さまざまな分野で区が講習会を開催し、その受講者が推進員になったり地域活動のリーダーになったりする仕組みを構築するという面では、区が率先して実施している内容であると思う。
- ・しかし、私はこうした取り組みに少し抵抗感がある。「プチ専門家」をたくさん育て、そうした人が地域をリードしていくことになれば、また地域の中で新しい格差を生み出すのではないかと懸念している。こうした講座に参加しなくても、地域の中でさまざまな知識やノウハウを持っている人がおり、そういう人たちを巻き込んでいくことこそが重要なのではないだろうか。そして、そのための基盤として、地域コミュニティが重要であるという点は同感である。
- ・市民の底上げをしていくことが大事であると思う。区の職員が考えた仕掛けもあるが、そうではない仕掛けも検討していただきたいと思う。たとえば、この会に30代の人たちがいないという話があったが、こういう時間に30代の人に来られるわけがない。30代の人を巻き込みたいなら、そういう人たちが来訪できる時間設定にすることから始めなければいけない。区や区民が周りの人に目を向けられるような仕組み作りが重要だと思う。
- ・いろいろ議論していくと、机上の空論になってしまう可能性もある。人がどういう風になり立っているかという人間学などを踏まえて議論する審議会であってほしいと思う。

○参加者

- ・大きく分けて3点ある。
- ・1点目は、抽象的で分かりにくいというのが率直な感想である。地域コミュニティとは何かということが分からない。
- ・2点目として、「分野別の施策」で、就労している人に対する施策が少ないように感じた。また、働きたくても働けない人を支援するという観点も必要ではないか。地域コミュニティを育成するという観点から言えば、いわゆる就職が難しい人たちや派遣労働・アルバイトで生活している若い世代の人たちは、夜間も働いていることが多く、地域活動に参加することは出来ない。若い世代が参加できる環境を作るという観点から、こうした面での対応が必要となるのではないか。
- ・3点目として、委員が示された避難拠点運営連絡会の具体例は非常に分かりやすく、地域コミュニティがいかに重要であるかを再認識した。「基本構想を実現するために」の「(3) 基本構想を実現するための実施体制の整備」で「区・地域団体・NPO・民間事業者など、さまざまな主体が効果的・効率的に公共サービスを担うことができるよう、区は適切な地域経営を行う」と記載されている。しかし、この表現が安易な民間委託を推進することにつながるのではないかと不安を覚えている。練馬区が責任を持って実施していた公共サービスがボランティアや市民団体に代替されてしまうのではないだろうか。そうすると、そうした公共サービスの提供について職務として従事していた若い世代の職を奪うことになるのではないか。基本構想では、練馬区は必要な公共サービスについて安易な民間委託をしないということを明記してほしい。

○参加者

- ・分野別の施策について、「IV環境まちづくり」の「6 交通」において、自転車の利用環境の向上ということが記載されているが、そのためには最低限自転車専用道の整備が必要であると思っている。
- ・自転車は本来車道を通るべきものであるが、歩道を走行することが多く、歩行者にとっては非常に危険な状態であり、光が丘地域内でも実際に事故が発生している。
- ・欧州では自転車専用道を整備し、自転車はそこを通らなければならないとしているようである。この背景は、自転車を車両として明確に位置づけていることと、温暖化防止の観点から自転車利用を促進しているということがあるように思う。
- ・日本では、法律上自転車は車両として明確に位置づけられているが、一般的には歩行者と同様と認知している人が多い。練馬区だけの問題ではなく、東京都などと一体となって意識啓発などの取り組みを進めることも必要ではないか。
- ・欧州では、車道の車線を減少させて自転車を走らせている。歩道の一部を変更するのはごくわずかであるようである。また、各自治体レベルの首長の判断で取り組みを進めている状況であると聞いている。練馬区では自転車専用道の整備に関して、どういう方針を持っているのかお聞きしたい。

○委員

- ・自転車利用環境の向上について特に強く発言したのは私であるが、これは子ども議会での議論の結果を踏まえたものである。少し沈静化しつつあるものの、原油価格の高騰や環境・健康の観点からも、自転車の専用道の整備も含めて、利用環境の向上は必要だと考え、この内容を盛り込んだ。

○委員

- ・新しい基本構想を立てるときに、すぐ新しいものを作りたがる傾向があるが、すでに練馬区は何十年という歴史を持ち、何十万という人が住んでいるため、いろんな可能性が眠っており、それを活かしていく視点が重要であることを再確認させていただいた。
- ・個人的な意見であるが、安易な民間委託はしないでほしいという指摘について、地方では指定管理者制度により、労働者の勤労条件が厳しくなるという場合もあるため、多様な観点からサービス向上につながるような方法を考えていく必要があるということを確認させていただいた。

○副会長

- ・いろんな視点からご意見をいただき、大変参考になった。
- ・区民一人ひとりの底上げが必要というご指摘をいただいたが、まさに重要なポイントであると思う。若い母親世代と接する機会があり、いろんな講習会などでの講師を行うこともある。こうした母親世代が都合が良いと考える時間設定や興味があると思うテーマ設定を行うが、参加者が少なく、主催者側の考えと受け手のニーズの違いを痛感することが多い。また、理念的な話になると人が集まらないという状況もよくある。
- ・こういう状況の背景には、面倒なことはやりたくなく、便利であれば良いという意識が

強いという面もあるため、こうした点の意識改革も必要であると思う。少しずつエンパワメントして、能力を上げていくしかないかと思う。思うようにいかないことが多いが、是非とも、皆さんのお知恵をお借りいただきたいと思う。

- ・また指定管理者や民間委託を慎重にすることは重要だと思う。かつては新宿区に住んでいたが、子育てが始まると同時に練馬区に移ってきた。そのときは子育ての環境が良いと調べて引っ越して来たのだが、練馬区は子育てや教育が優れているということを PR するためにも、ただ保育園の数などの量をそろえるだけではなく、より練馬区らしい高いサービスを出していくべきであると感じており、行政にも頑張ってもらいたい。

○委員

- ・(仮称)自治基本条例検討の区民懇談会に参加させていただいた。その中で情報公開・情報発信が重要であるという話になった。しかし、情報はいくら公開しても発信しても、本当に必要な人に届くとは限らないということを忘れてはならない。
- ・小渕内閣時代に地域振興券を発行したが、本当に必要としている人に配布できなかったそうである。ある市町村では、取りに来ない人を調べて、福祉事務所の人が一軒ずつ回って配ったそうである。
- ・やはり、最後は人の力が重要であるということを基本的な視点として大事にしていかなければならないと思っている。

○委員

- ・環境活動を実際に行っているという話をしたが、いま、担い手のほとんどはシニア層である。同世代もしくは若い世代は気持ちはあってもそんな時間があればパートなどを始めてしまって地域活動を行う余裕がなくなっているのが現状である。
- ・昨年度の区民懇談会から関わっている中で、区民一人ひとりが、区の現状や課題に目配りして関心を持ち、可能な限り参加していくことが重要であると感じている。
- ・本日いただいた貴重なご意見については、今後の議論の中で活かさなければならぬと感じている。今後ともまだまだお力をお借りしながら答申案をまとめていきたいと思う。

7. 閉会

(以上)